

小屋裏収納やロフトの入力方法（部品の利用）

文書管理番号：1108-03

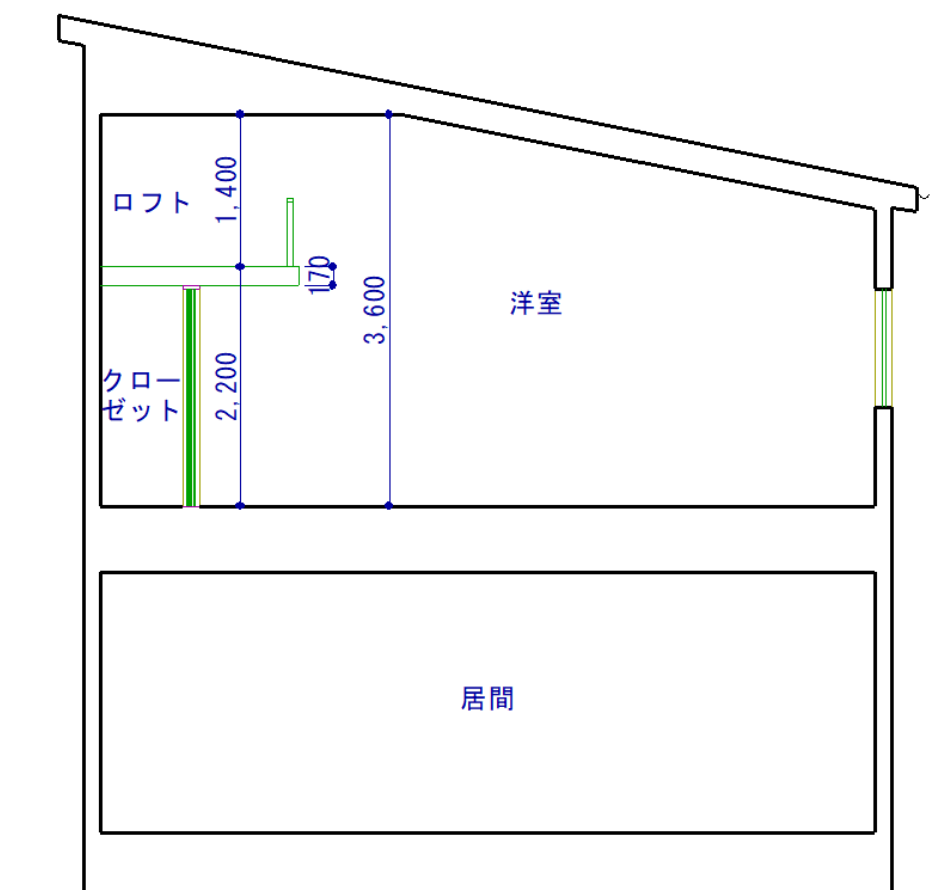
Q. 質問

小屋裏収納やロフトを入力したい。

A. 回答

小屋裏収納やロフトを入力する方法はいくつかありますが、ここでは下のような2階の部屋の一部にロフトを作成する方法について説明します。

部品を利用するため、プレゼン（内観パース）を想定した入力方法になります。



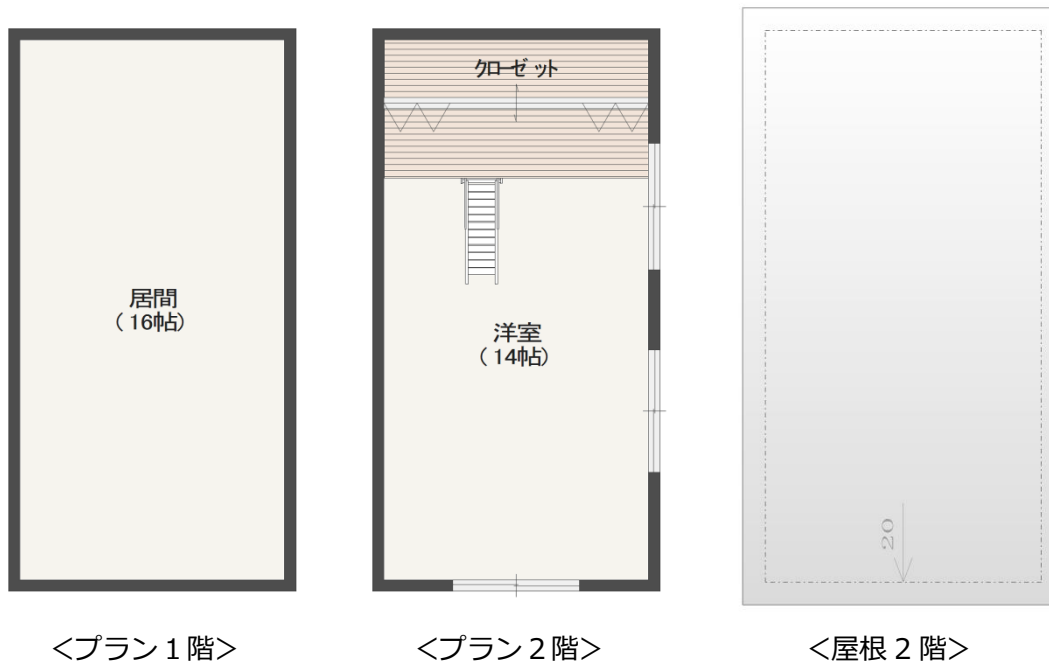
最上階の小屋裏に小屋裏収納やロフトを入力する場合は、こちらをご覧ください。

[\[1107\] 小屋裏収納やロフトの入力方法（小屋裏の利用）](#)

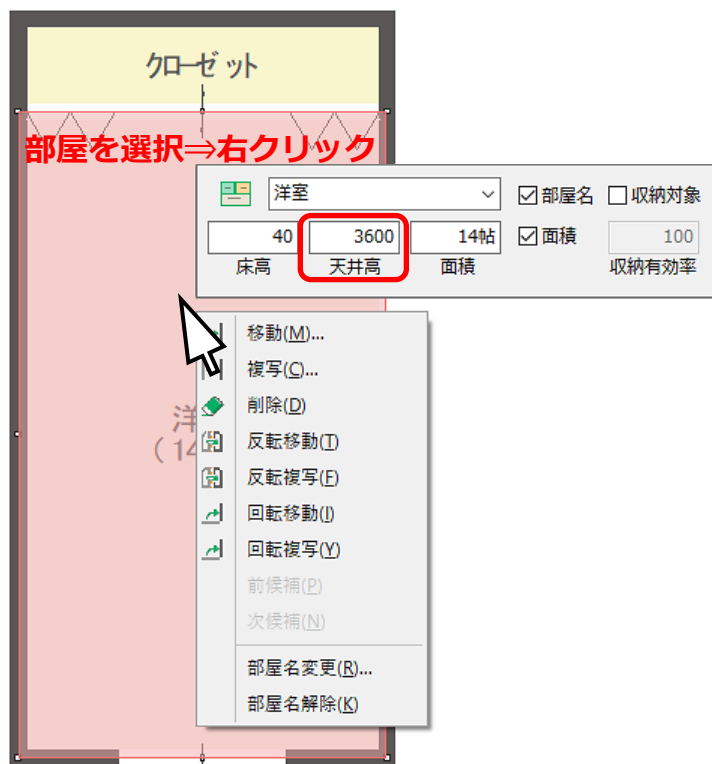
操作手順

- **間取り**（間取りは簡略化してあり、屋根の入力手順は省略します）

ここでは、2階のロフトを配置する区画の天井高を、すべて「3600」に変更します。



- ① (プラン図)で (要素選択)をクリック
- ② 洋室の区画を選択後、右クリック
- ③ 部屋のスマートメニューで、洋室の天井高を「3600」に変更
- ④ 同様にクローゼットの天井高も「3600」に変更



【参考】

洋室の天井高を「3600」に設定することで、屋根よりも高くなる天井部分は、屋根形状に合わせて勾配なりに自動作成されます。

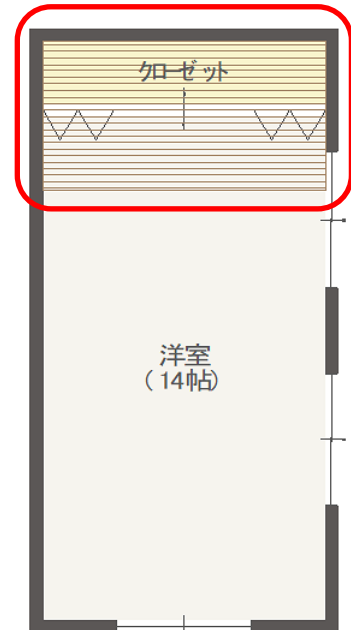
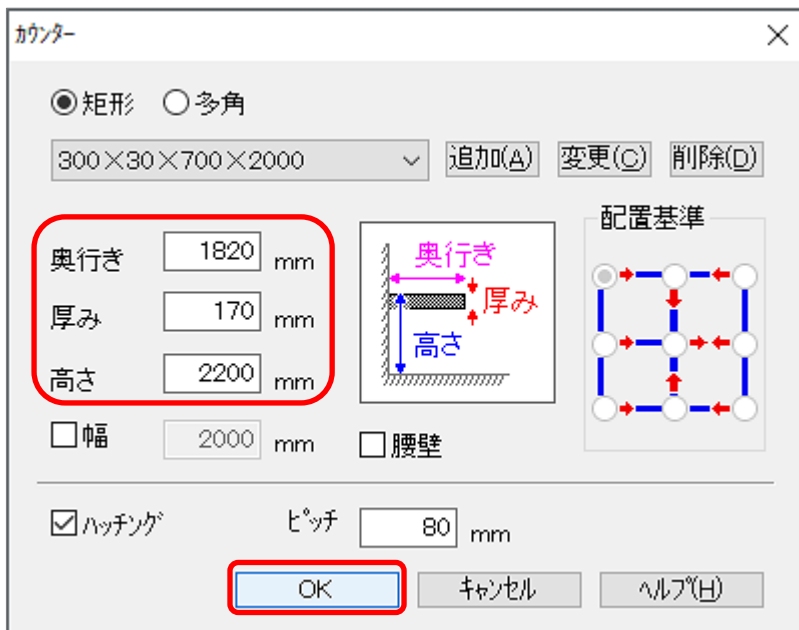
● ロフト床

- ①  (内観部品)の  (カウンター)をクリック

* カウンターの設定画面が表示されます。


- ② カウンターの設定を以下のように指定し、「OK」をクリック後、カウンターを配置

* 奥行き「1820」、厚み「170」、高さ「2200」に設定します。



* カウンターの高さを 2200mm にすることで、ロフトの天井高が 1400mm になります。

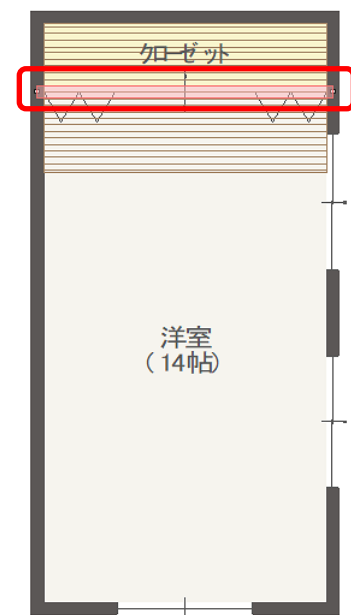
クローゼット天井高 (3600mm) - カウンター高さ (2200mm) = ロフト天井高 (1400mm)

- ③  (要素選択)で、ロフト空間下の「収納」の壁を選択し、右クリック後「属性変更」を選択

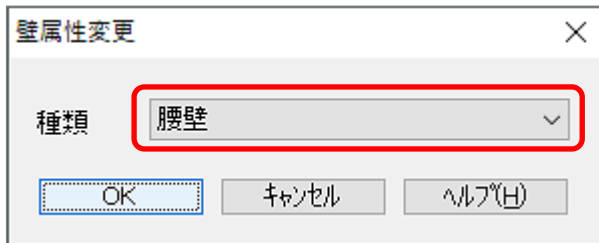
* 建具が選択された場合は、キーボードの[Tab]キーを押すことで、次候補要素に切り替えることができます。

要素が重なっている場合に、目的の要素を選択する方法についてはこちらをご覧ください。

[\[1106\] 重なった位置にある要素の選択方法](#)



- ④ 種類を「腰壁」に変更し「OK」をクリック

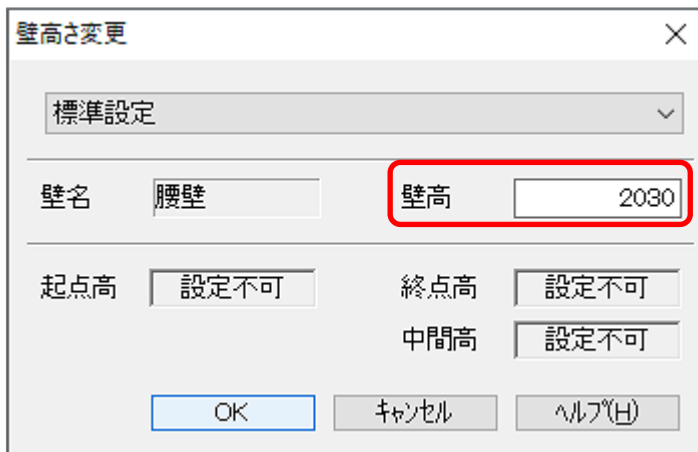


* 壁がカウンター上に飛び出ないように、壁属性を「腰壁」に変更します。

- ⑤ 同様に、変更した腰壁を選択し、右クリック後「高さ設定」を選択

- ⑥ 腰壁の壁高を「2030」に変更

* ロフトの床の厚み（上記カウンターの厚み 170mm）を引いた高さに設定します。



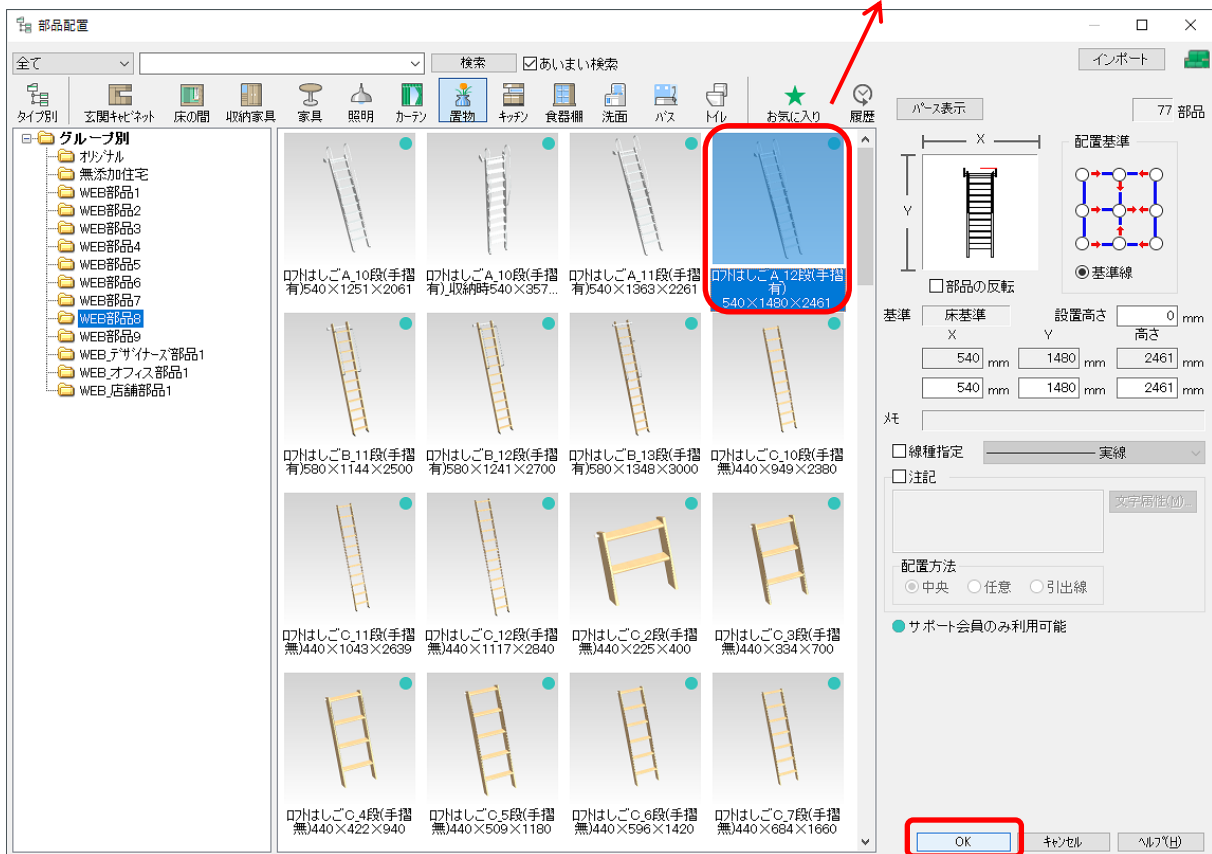
● はしご部品

①  (内観部品)の  (置物)をクリック

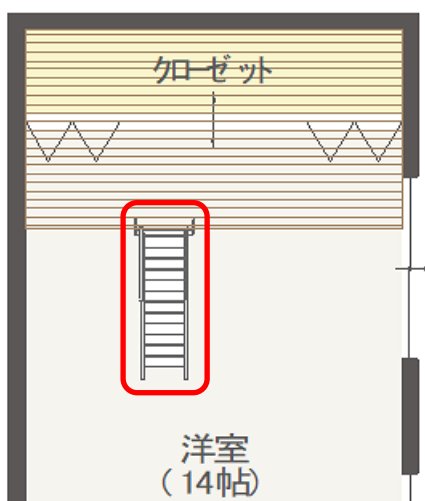
* 部品配置の画面が表示されます。

② WEB 部品 8 の「ロフトはしご A_12 段(手摺有)」を選択

* WEB 部品は、サポート会員の方のみご利用いただけます。



③ 「OK」をクリックし、以下のように配置



● ロフト手摺

ロフトの手摺を、付属品の「スリット」を利用して入力します。

- ①  (付属品)の  (スリット)をクリック

* スリットの設定画面が表示されます。

- ② スリットの設定を以下の内容に指定し、「OK」をクリック

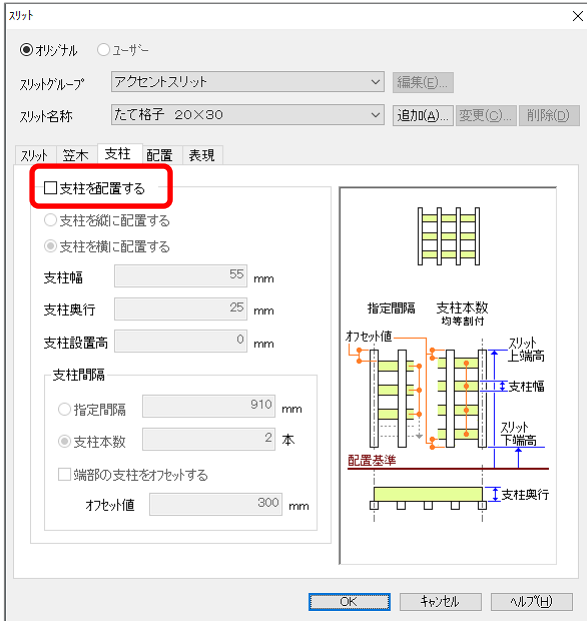
<スリット>

- ・「縦格子」を選択
- ・スリット上端高「2600」、下端高「2200」
- ・スリット幅「50」、奥行「50」
- ・スリット間隔は「格子ピッチ」で「300」

<笠木>

- ・「笠木を付ける」にチェック
- ・笠木幅「35」、奥行「70」
- ・笠木端部延長「47」

<支柱>



- ・「支柱を配置する」にチェックなし

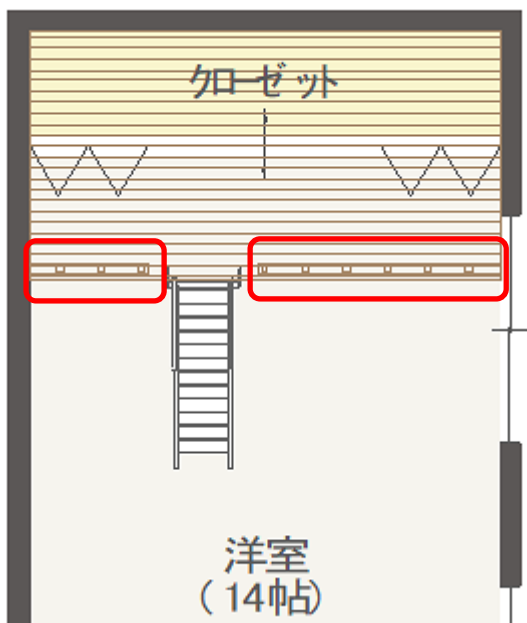
<配置>




- ・ 配置基準「床」
- ・ 配置位置「スリットを芯に配置する」

- * 上記の設定はあくまで一例です。ダイアログの挿絵の説明を参考に、実際のデザインに合わせて指定してください。
- * スリットの設定は、「追加」からパターンとして登録が可能です。よく使用するスリットの設定は、パターンとして登録しておくとも一覧から選択して使用でき、便利です。

③ スリットを以下のように配置



④  (3D パース)で確認



* ロフト床（カウンター）の色は、「部材色変更」で変更したものです。

参考

上記の方法で作成したロフトは、小屋裏を利用し、部屋の床高・天井高を調整して作成することもできます。

小屋裏の詳しい作成方法については、こちらをご覧ください。

[\[1107\] 小屋裏収納やロフトの入力方法 \(小屋裏階の利用\)](#)

● 小屋裏の設定



(物件概要)の「基本情報」画面で、建物階数の「小屋裏」にチェックを付けます。

● 間取り

プラン 2 階のクローゼットと洋室の天井高を「2030」に設定します。

* 2200 (天井高) $- 170$ (クローゼットとロフトの懐厚) $= 2030$

小屋裏には、「ロフト」と「吹抜」の区画を作成し、それぞれの床高を「-685」に設定します。

* ロフトの床は 2 階の軒高を基準 (0) として設定します。

ここでは、2 階の横架材間隔を 2925、2 階床高を 40mm として計算します。

2925 (横架材間隔) $- 40$ (2 階床高) $- 2200$ (ロフトの床上端までの距離) $= 685$

2 階軒高よりも床が低くなるため「-685」と設定します。

<プラン 2 階>

クローゼット	2030	2帖	100
床高	天井高	面積	収納有効率

<小屋裏>

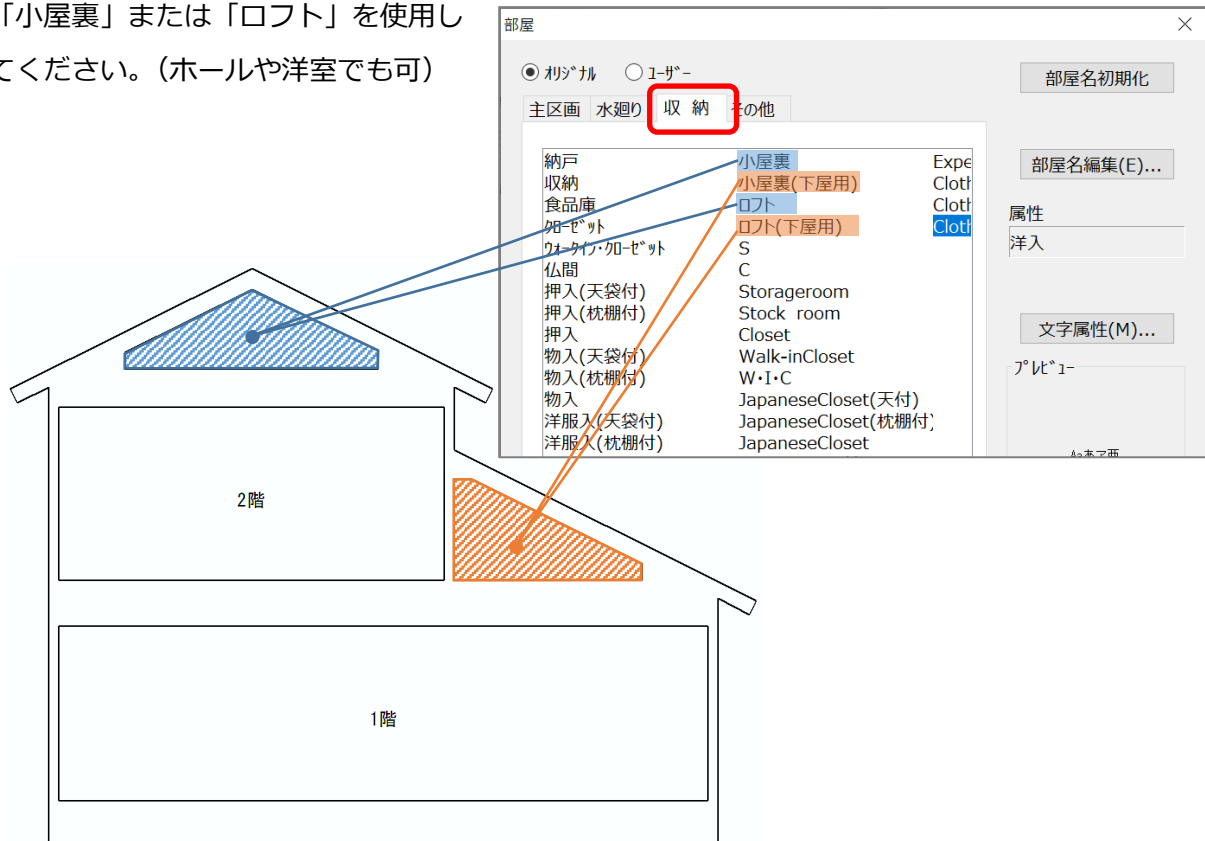
ロフト	-685	1400	4帖	80
床高	天井高	面積	収納有効率	

吹抜	-685	1400	12帖	80
床高	天井高	面積	収納有効率	

【注意】 部屋設定の小屋裏(下屋用)・ロフト(下屋用)

最上階の屋根下にあたる、小屋裏の階層に部屋を設定する際は、「小屋裏(下屋用)」、「ロフト(下屋用)」は使用しません。

「小屋裏」または「ロフト」を使用してください。(ホールや洋室でも可)



* 「小屋裏(下屋用)」「ロフト(下屋用)」は下屋裏に設ける部屋に使用します。

* ロフトの手摺は、壁⇒腰壁手摺を手摺高さ「400」で配置しています。

